

十勝岳

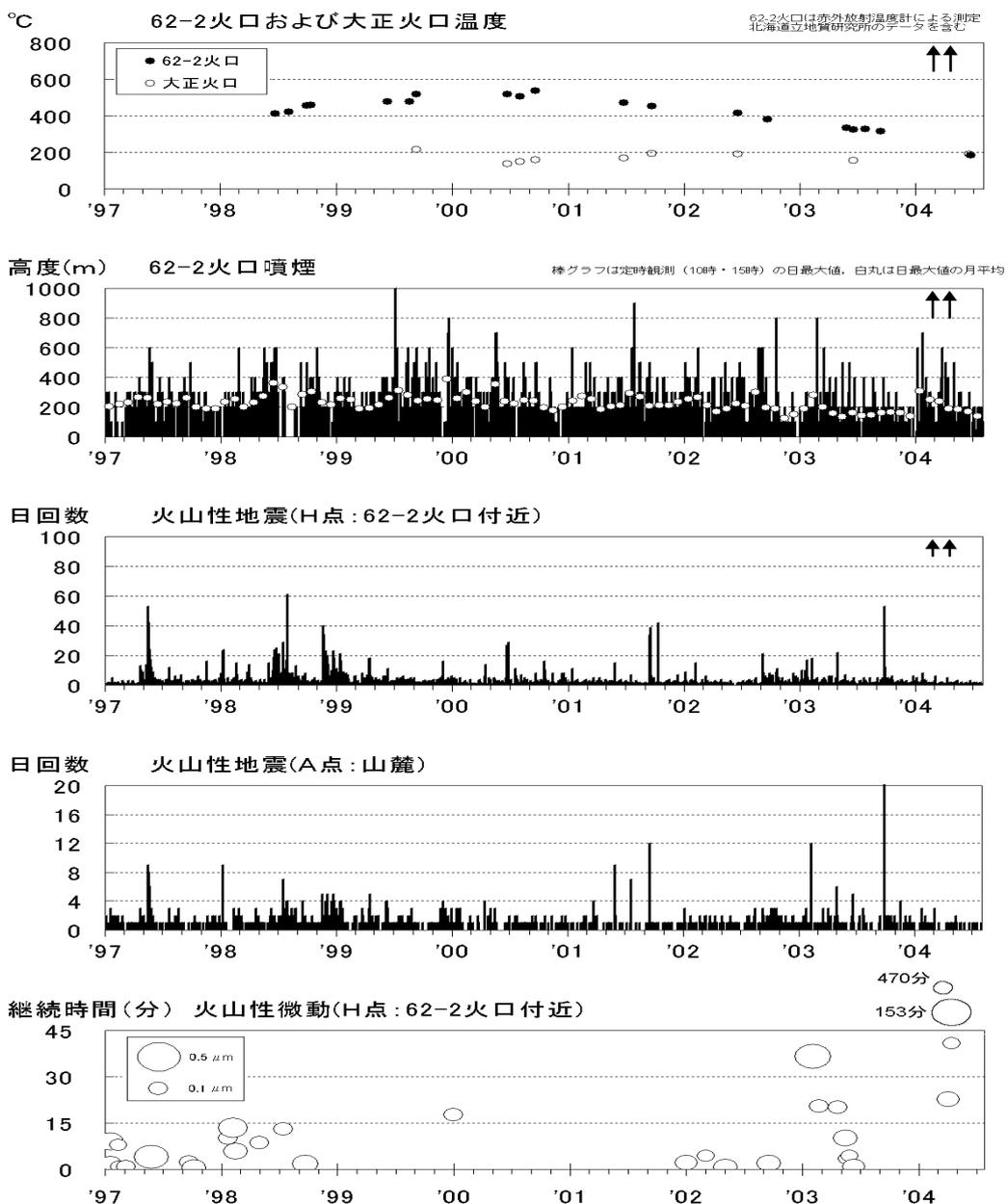
1 概況

火山活動はやや活発な状態が続いています。

62-2 火口の噴煙活動は依然活発な状態で経過しています。4月19日以降、振幅の小さな火山性微動や有色噴煙は観測されていませんが、同様な現象は今後も繰り返し発生する可能性があります。

2 噴煙の状況

62-2 火口の噴煙は白色で、噴出の勢いは強い状況が続いています。噴煙の高さは火口縁上おおむね 100~200mで経過しました。



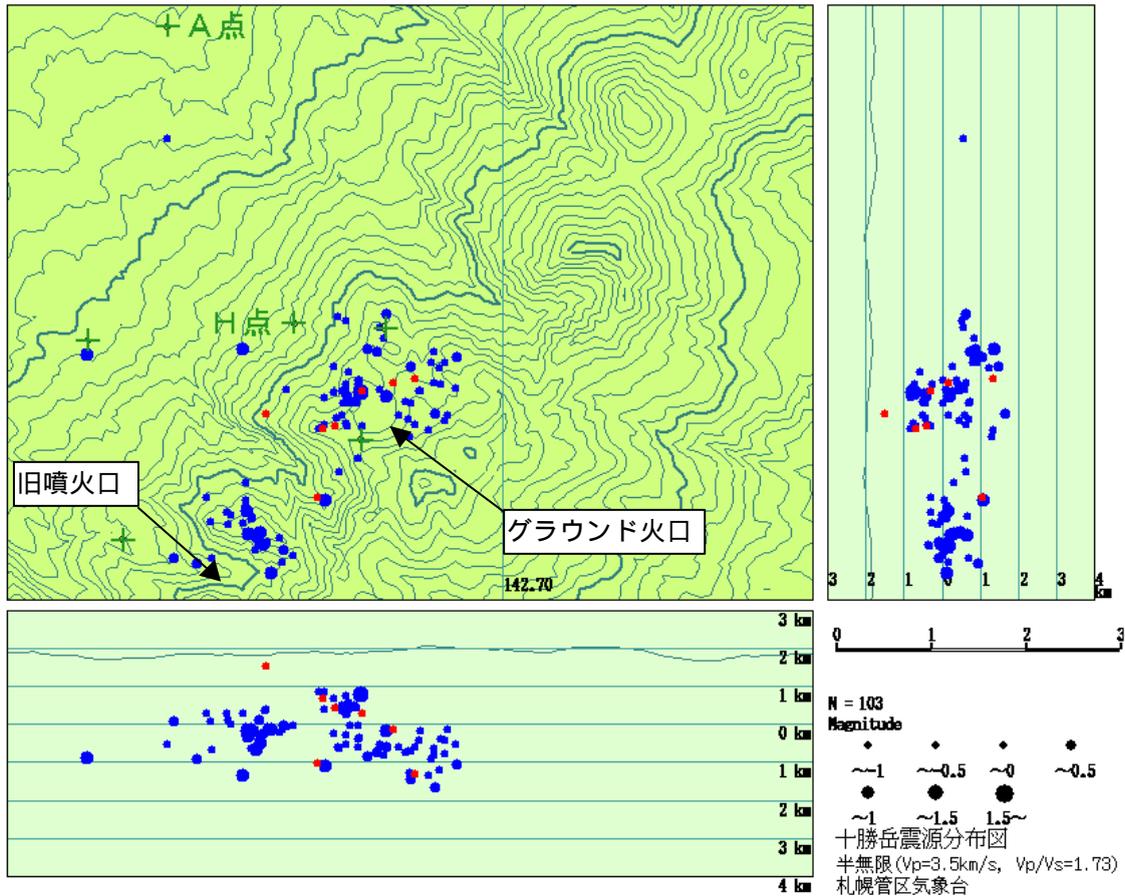
最近の火山活動経過図(1997年1月1日~2004年7月31日) 印は噴火

3 地震および微動の発生状況

今期間の火山性地震の回数は1日あたり0~2回で少ない状態が続いています。火山性微動は4月19日以降観測されていません。

地震・微動の月回数 (H点:火口付近の観測点 A点:山麓の観測点)

2003~2004年	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
地震回数H点	26	106	62	36	36	41	17	30	23	26	12	13
地震回数A点	5	40	16	9	12	7	6	5	5	7	2	4
微動回数H点	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0



十勝岳の震源分布図 (丸印:震源、+印:地震観測点)

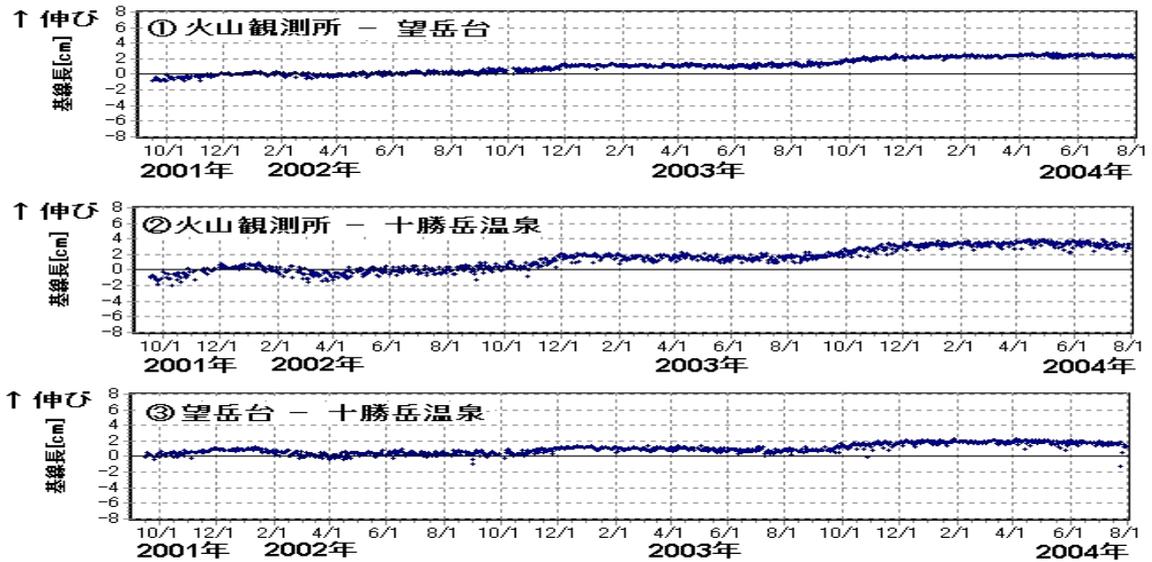
赤丸は今期間(2004年7月1日~7月31日)に求めた震源を示しています。

青丸は前期間までの11か月間(2003年8月1日~2004年6月30日)に求めた震源を示しています。

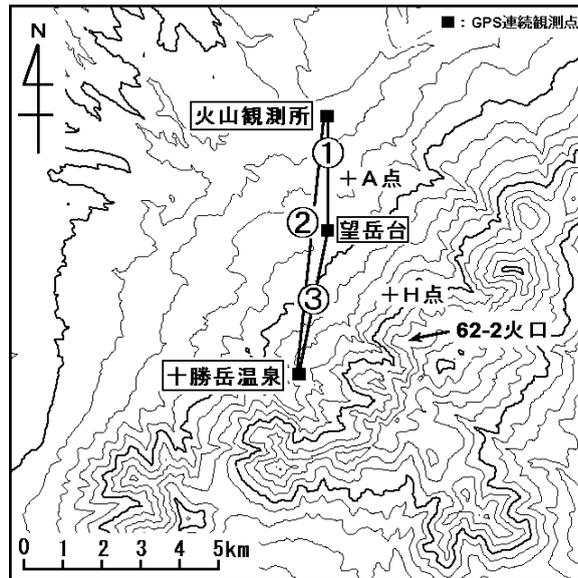
過去の震源分布は大きく分けてグラウンド火口周辺と三段山~旧噴火口周辺の浅部(海拔付近)に集中しています。今期間の震源もこれらの領域内に分布しています。

4 地殻変動の状況

西麓での GPS 連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は認められません。



基線長変化(2001年9月13日~2004年7月31日)



5 上空からの観測結果

7月15日に北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測では、62-2火口の噴煙活動は活発で白色の噴煙が勢いよく噴出していました。

大正火口からは弱い噴気が見られましたが、大きな変化はありません。また、62-2火口周辺に位置するその他の火口にも変化は見られませんでした。



62火口群と大正火口(北西側上空から撮影)